

学校開校 準備委員会 NEWS

令和2年12月 No.10 榎尾中学校区学校開校準備委員会

第8回学校開校準備委員会のご報告

12月15日（火）、第8回学校開校準備委員会を開催しました。

前回につづき、学校校舎の配置等、（仮称）榎尾学園のおおまかな施設整備のイメージをとりまとめた、基本計画の策定にむけて意見交換を行いました。

当日の内容

水泳授業（学校プール）のあり方と新しい校舎の施設配置について教育委員会から説明しました。（詳細は次ページに掲載）

「水泳授業のあり方」

については、近年の猛暑傾向による熱中症等の安全面から、子どもたちのへの「安全性」、「快適性」、「専門性」を勘案し、民間等の屋内プールの活用の検討について説明しました。

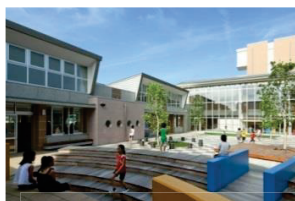
「学校校舎の配置等」

については、プール設置する場合、4階建の校舎配置計画になることを確認し、プール設置しなかった場合には、そのプール設置スペースを有効に活用し、校舎を低層化し、低学年が遊べる空間が確保できる施設配置計画を確認しました。

「意見交換」

では、民間プールに期待する声や、プールを設置しない場合の授業のあり方、プールの設置を望む声など、様々な意見交換が行われました。

次回、1月に予定する準備委員会では、今回の意見を踏まえた検討案を示すことで終了しました。



低学年テラスのイメージ



前回に続き、大阪市立大学横山名誉教授にご助言をいただきました。

これから水泳授業のあり方検討

- ・効果的な指導、弾力的なカリキュラム編成
- ・猛暑傾向への安全対策
- ・より快適な水泳環境を児童・生徒へ



継承・発展

これまでの水泳授業

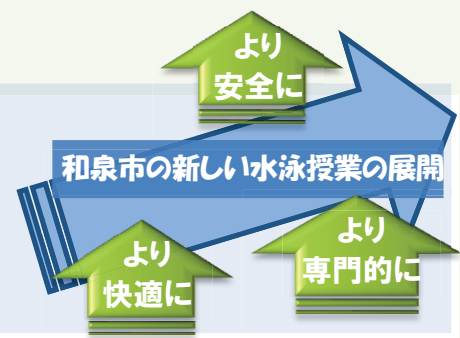
- ・和泉の子は泳げる！ → 泳力・泳法の習得
- ・中学校まで学校で教員による水泳授業



低層構造の場合の配置イメージ図

今後の水泳授業の方向性

和泉市では、学校の水泳授業に**民間等の屋内プールを活用し**、「安全性」、「快適性」、「専門性」の3つの観点でさらなる充実を図り、新しい水泳授業の展開を推進します。



より安全に

安全性を高めた水泳授業を確保

- ・屋内プールにより、猛暑に伴う熱中症等の事故を防止
- ・指導員は心肺蘇生法等のライセンスを保有し、プール監視員も配置
- ・指導員 1 名につき子どもの指導人数基準を設定



より快適に

年間を通じて快適なプール環境を確保

- ・天候（猛暑、低気温、降雨、雷等）に左右されず、快適な環境を確保
- ・清潔な更衣室、シャワーブース、採暖室を完備
- ・1 時間毎の水質チェックによる高い衛生面の安全性



より専門的に

確立された専門性の高い指導による泳力向上

- ・民間独自の運動カリキュラムを取り入れた学年や体力、技術に応じた段階別指導
- ・学校の教員の教育的指導に指導員の専門的指導が加わり、指導の効果を向上
→ 小学校低学年のうちに 6、7 割の児童が 25 メートルを泳げる泳力の獲得
- ・着衣泳など、水の事故防止に関する自己の命を守る安全教育
- ・泳げる子どもはさらに高い泳力を



その他にも民間等の室内プールを活用することによるメリットを活かします

- ・指導直前にも児童生徒の検温等の健康チェックを実施
- ・通年で水泳授業が可能 → 弾力的なカリキュラム編成が可能に
- ・教職員による水質管理、清掃等が不要 → 子どもと向き合う時間が増加
- ・建替えや大規模改修等、維持管理が不要 → コスト面でも縮減が期待
- ・バスによる移動時間 → 事前指導や授業のふり返し等の学習に活用



（仮称）榎尾学園は、民間等の屋内プールを先がけて取入れるなど、先進的なモデル校として、教育環境の充実に取り組んでいきます。

配置案について

基本的な考え方

■施設一体型義務教育学校の特長を活かせる校舎配置。

- ・幅広い年齢の子ども達が一つの学び舎で自然と交流し成長
- ・特認校として魅力ある学校に向けて先進的な取り組みを実践

【プール設置する場合】

プール設置した場合には追加する用地にプール、体育館を設置し、**4階建校舎**の計画となることを紹介しました。



【プール設置しない場合】

プール設置しない場合には、そのスペースを活用し**2階建校舎**として低層化しつつ、低学年テラスやプレイコートの設置など、365日利用可能な空間

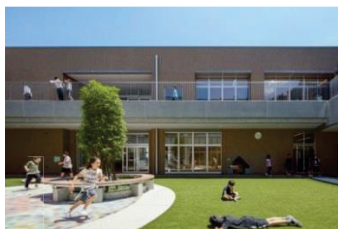


特色ある校舎・施設整備の提案

プール設置しない場合、高低差を活かしたフロアのレイアウトや従来の学校にはあまり見られなかったテラスやプレイコートなど設置することができ、特色と実用性のあるイメージとして紹介しました。

高低差を活かし二つの校舎を並べる形にすることで、1階、1.5階、2階、2.5階という半階単位で上下移動できる**スキップフロア**は、現状の敷地の形状を活かした構造で、見通しがよく、子どもたちが自然とふれあう機会が創出されます。

ある程度の広さをもった**テラス**を校舎（教室）と接続させ整備することで、例えば、休み時間に上履きのままテラスに出て外遊びができたり、理科の実験・観察や工作作業、グループ発表の練習など授業での学習活動に活用できたりします。



また、**プレイコート**にはテニスコートや一輪車コーナー、農作物を育てる教育田(畑)を整備したり、学年などの集団活動や地域交流としての活用など、多様な使い方が考えられます。



新しい学校で子どもたちにどういった力を育むのか、望ましい形はどのようなものか、これらの提案やこれまでの意見を活かしながら検討していきます。

主な意見等

【学校プール・水泳授業について】

意見交換では、民間プールに期待する意見、水泳授業のあり方に対する質問、可能ならプール設置を望む意見など、様々な意見や質問をいただきました。

（意見等）

- ・現状や民間の話を聞くと、親としては民間プールの魅力は感じる。
- ・今の夏場の状況を見ると、熱中症や紫外線などからも屋内プールの使用が今の流れ。
- ・保護者の心配は紫外線などの、その後の健康被害にもある。
- ・学校プールは教職員の負担がとても大きい。民間利用により指導に集中できる。
- ・プールを作る、作らないではなく、特認校でもあり特色のある学校をつくるという点で、1年間を通して水泳指導できるということを考えてもらいたい。
- ・スイミングだけでなく、他のスポーツも体験させるようなことも考えてもらいたい。
- ・暑さ指数で利用できない日が多くあるのは分かる。
- ・子どものことを考えると学校にあった方がいいのかなとも思う。
- ・未来のことを考えると不安なところもある。屋根をつけるなど、暑さ対策を考えることはできないかなあと思う。
- ・どのように工夫できるか考えることが大切。安全ありきとは思いますが、暑いから涼しくというだけではなく、暑さの中でも育つことも大切。
- ・夏の水泳指導は確保してほしい。
- ・南横山小のプールができれば、移動時間の短縮にもなると思う。

（質疑応答）

- ・民間の場合、年間何時間ぐらい授業を行うのですか。
 - ← 現状と同等の年間10時間程度を想定しています。
- ・「水泳のあり方」というのは、市全体の話か。
 - ← 市全体としての方針であり、10年以上かけて順次取組んでいく予定です。
- ・水泳記録会を続けるなら、夏の水泳指導も必要と思う。槇尾(学園)だけ水泳指導せず、他はしているとなるとおかしいと思う。
 - ← (仮称)槇尾学園と他校で差がある状況がないように考えていきます。
- ・大人の意見が主になっている。子どもたちの意見は聞けないか。
 - ← 子どもの判断に委ねることはできませんが、検討したい。
- ・インストラクターに来てもらうというのは考えられないのか。
 - ← 派遣は検討可能ですが、暑さの課題は残ります。

【校舎配置・整備等について】

- ・2階建や4階建の案の説明を見せもらったが、もう決まっているのではないか。
 - ← 総合的にどういう学校が望ましいか意見もいただきながら検討していきます。
- ・体が不自由な人の移動は大丈夫ですか。
 - ← エレベーターも設置し移動は大丈夫です。
- ・小学校の45分授業と中学校の50分授業の時間差はどのようにしているのか。
 - ← 南松尾はつが野学園の例では、前期課程の休み時間を15分とし、始業を揃え、授業終わりのチャイムを鳴らさない形にしています。子ども達はそれに合わせて生活できています。